

三重大学大学院医学系研究科・講師 土井 素明 Doi, Motoaki
三重大学医学部・医師 Fukunaga, Takaki 福永 崇樹

新しい移植技術

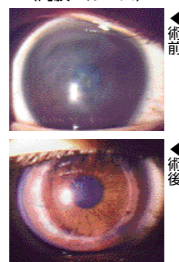
角膜移植だけではない

“移植”が多くの患者様の眼を救う

1 角膜移植

角膜ヘルペスなどの角膜炎や、角膜変性症、水疱性角膜炎などで角膜が濁ると、見えにくくなってしまいます。角膜移植はアイバンクを通じて亡くなられた方より献眼して頂いた透明な角膜を患者の濁った角膜と置き換える治療で、治療前と比べ光がたくさん眼の中に入ることになり見えやすくなるのです。角膜の濁っている場所により、全層角膜移植、表層角膜移植、深層角膜移植などを行います。移植後の拒絶反応が問題でしたが、免疫抑制剤の使用法の進歩により、成績が向上してきました。患者の角膜の状態によっては、角膜上皮形成術という方法が行われることもあります。

●角膜移植症例 〈角膜ヘルペス〉

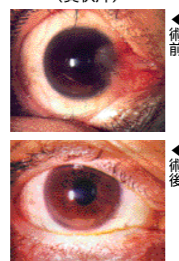


2 羊膜移植

羊膜は妊婦の胎盤の一部です。角膜に小さい穴が開いたときに羊膜でその穴をふさぐことができますし、眼に酸やアルカリの薬品が入ったときや何度も再発する翼状片に対して、羊膜を移植すると、角膜を透明に保つことができるようになってきました。三重大学産婦人科の協力のもと、帝王切開を行った妊婦から羊膜を提供していただき使用しています。



●羊膜の採取 〈胎盤から羊膜を採取している様子〉

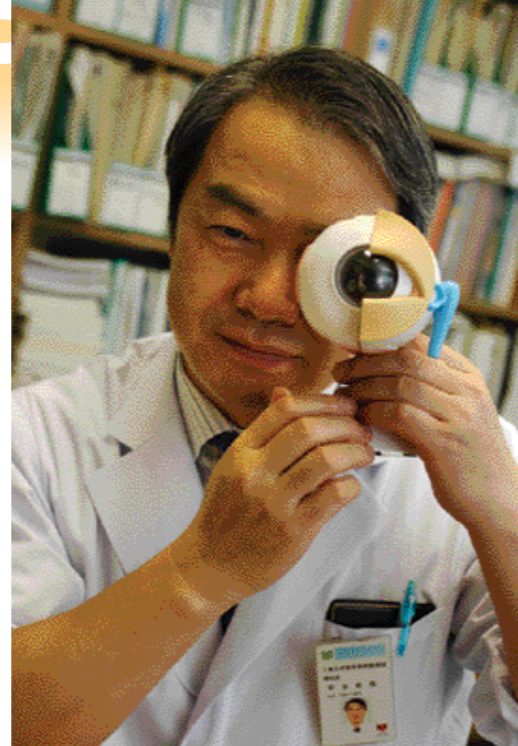


3 大腿筋膜移植

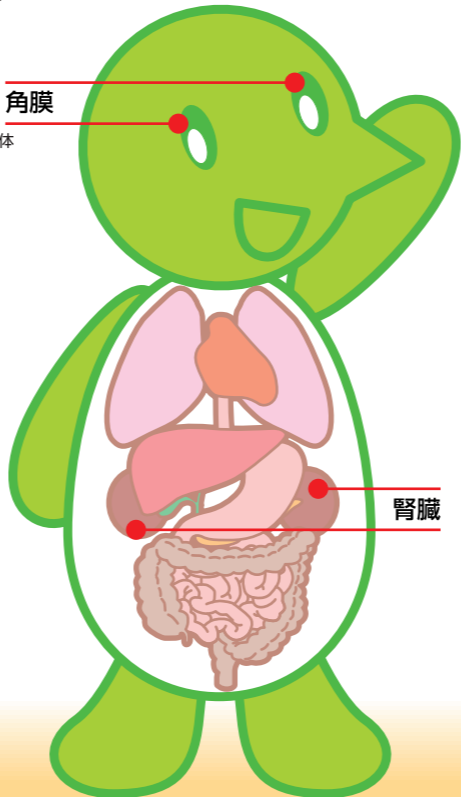
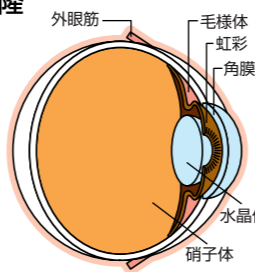
慢性的な強膜炎などで強膜に穴が開きそうな患者には、三重大学整形外科の協力のもと、その患者の大腿筋膜を採取し、強膜上に移植することで、強膜を補強しています。大腿筋膜は眼瞼下垂で眼が開かない患者に対し、その程度を軽くする目的で使用する場合もあります。

4 その他の移植

アイバンクを通じて亡くなられた方より献眼して頂いた強膜は、強膜炎などで強膜に穴が開きそうな患者の薄くなった強膜を補強する時や、眼瞼悪性腫瘍で瞼を形成する時にも用いています。また、眼瞼悪性腫瘍で瞼を形成する時には、その患者の耳たぶの軟骨を瞼に移植する場合もあります。さらには、結膜が欠損した場合は、その患者の口腔粘膜を採取し、欠損した部位に移植することもあります。これからも、眼の病気を治すために、新しい技術が開発され、盛んに移植がおこなわれるようになるでしょう。



三重大学大学院医学系研究科・教授 宇治 幸隆 Uji, Yukitaka



EDITION

臓器移植を推進していくために

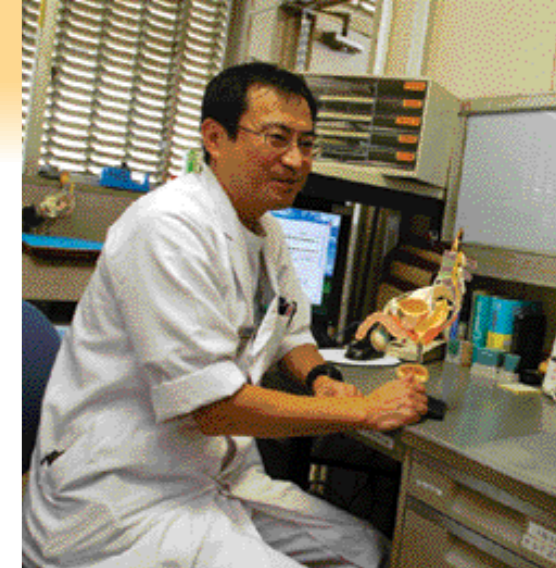
皆さんは腎臓移植のことをご存じでしょうか。慢性腎不全の治療として血液透析、腹膜透析、そして腎臓移植があります。現在日本では約24万人が血液透析を受けており、毎年1万人ずつ増え続けております。それでは腎臓移植はどうでしょうか。日本での腎臓移植の一例目は1956年に行われ、2004年には898例(生体腎移植81%、献腎移植19%)の腎臓移植が行われています。1997年に「勝器移植法が施行され、日本でも脳死での臓器提供による移植が可能になりました。心臓などは脳死状態でないと提供できませんが、腎臓移植は違います。心停止後の提供で以前から移植が行われています。

三重大学医学部附属病院でも1980年に一例目の腎臓移植が行われ、現在までに60人が腎臓移植を受けております。内訳は献腎移植51例、生体腎移植9例と献腎移植を主体に行ってきました。腎臓移植の手術法は確立されており、拒絶反応を防ぐための免疫抑制剤も昔に比べ格段に進歩しており移植後の長期成績もよくなっております。三重大学医学部泌尿器科では以前より年一回腎臓移植に関する説明会と献腎移植希望者との面談を行い移植に対する理解を深めて頂くようにしております。

腎臓移植を勧めるにあたり提供者を増やす必要があり、三重県角膜・腎臓バンクと協力して移植を推進するために県内での講演会など様々な啓蒙活動を行っております。2004年9月18日には臓器移植全国推進大会が津市のリージョンプラザで開催されました。最近では2005年3月16日に市立四日市病院において三重県で初めて脳死での臓器提供が行われ、国内で36例目の臓器移植が行われました。

しかし、腎臓移植を受けられる人はまだまだ多くありません。脳死下での臓器提供には本人の書面による意思表示が必要です。代表的なものが臓器提供意思表示カード(ドナーカード)です。心停止後の腎臓・角膜の提供にはドナーカードは必要ありませんが家族の同意が必要です。臓器移植を推進していくためにはひとりひとりが健康および死について考え、それぞれの意思を尊重して、皆で理解し合うことが大切です。

腎臓移植に対する理解を深めて頂くために



三重大学医学部附属病院・講師 Kinbara, Hiroyuki 金原 弘幸
[URL] <http://www.medic.mie-u.ac.jp/urology/>



三重大学大学院医学系研究科・教授 Sugimura, Yoshiki 杉村 芳樹

